

エチオピア事業 家庭訪問報告

1. Airzre Brene

- ・8歳、男児（CP）
- ・8か月前にバハル・ダールに引っ越してきた。理由は、ここにチェシヤがありそのサービスが受けられるからだと話してくれた。それ以来、チェシヤの訪問を受けている。
- ・学校は5キロほど離れた場所だが、トゥクトゥク（3輪タクシー）で通うことができる。
- ・車椅子は初めての利用。父親はリタイヤしていて年金生活。



チェシヤの若いスタッフを含めて4人が同行してくれた。



最後に母親と弟が見送ってくれた

2. Amanual Yose

- ・3歳、男児（CP）
- ・以前車椅子をもらったことがあるが体に合わず、ちゃんと使えるのは初めて。
- ・首がなかなか据わらないため固定するものが必要。（ベルトで工夫していた）
- ・運転手の父親（29歳）と主婦の母親（30歳）、一人っ子。
- ・共同住宅で暮らしていて訪問時にはそこに住んでいる大家さんも来ていた。



首が据わらないために車椅子に乗せるのも簡単ではないが、これからは少し楽になるといいが。

3. Bilare Dawled

- ・7歳、男児（CP）
- ・三人兄弟で他の二人には知的障がいがあるが（体は元気で）外に遊びに行っていた。
- ・学校は近くないし、トゥクトゥクを使う余裕はない。
- ・母親と叔母と一緒に暮らしている。経済的には厳しい様子。
- ・以前の車椅子が小さくなり、取り替えてチェシヤに戻すところだった。



通訳するチェシヤスタッフ

合わなくなった車椅子を運び出す
チェシヤのスタッフ

4. Darwite Takeil

- ・ 8歳、女兒（CP）
- ・ 幼時期に歩行器から落ちて脳性麻痺（CP）になった。
- ・ 父親は建築業、母親は近くの工場勤務。叔母とその子どもも一緒に一室で暮らしている。
- ・ 学校には行かず、チェシャから脳のトレーニングを受けている。
- ・ 父親に感想を聞くと「これまでずっと寝かせた状態だったので車椅子が使えるようになって、座ったり、動いたりできて本当によかった。」と笑顔で答えてくれた。



これが家の外観。
この奥の1室で生活している。

グリーンのジャンパーは
同行した山下さん。

5. Mesayite

- ・ 15歳、女子（CP、てんかん）
- ・ てんかんの発作が起きることもあり、この日も調子が悪そうだった。
- ・ 学校には行っていない。
- ・ 母親(37歳)、祖母(65歳)、子どもは他に二人。
- ・ 母親は現在働いていないが以前の収入の蓄えがあることや、家が持家なので銀行からお金を借りられること、また叔父から金銭的サポートがあるとのことだった。



写真左の左奥の女性が母親。子どもは体調不良で写真は掲載無し。

感想：最低でも5軒は訪問したいとチェシャに要請した結果、全部で5軒の家庭を訪問した。子どもに合わなくなった車椅子は引き取り、次の子どもに渡す過程を見ることができた。また、チェシャの若いスタッフはそれぞれ担当の子ども（12～15人）の家庭を週2回訪問していて、子どもの状態や各家庭のことをよく理解していた。当会のお願ひしているリユースと共に、CBRを実践しているのがよく分かった。わざわざ違う地域からバハル・ダールに引っ越してくる家族があることも納得できた。

以上